



# 私のひとりごと

## 「後味の悪い日」

真夜中に家に帰り、車のドアを開けた時の事。何やら虫らしい物が車内に飛び込んできた。手で追い払うがフロントガラスにぶつかるだけで、うまく逃げ出せないでいる。そのうち目も暗さになれ、虫らしき物をしげしげと確認した時、私の心は凍りついた。ハエか何かだと思っていたがハチである。しかもただのハチではなくスズメバチである。その瞬間から体を動かす事もできず、息をする事すら苦しくなる。ただひたすら、ご機嫌よくお帰り？になる事を神に祈り続けた。その祈りが通じたのか、開いているドアから勢いよく飛び出していった。僅か1～2分ぐらいの出来事であったと思われるが、私にはとても長く感じられ、このまま朝までか・・・と覚悟を決めたくらいである。

私がこれ程までにハチを恐れるのには訳がある。それは大工に成りたての頃の夏の日・・・。アシナガバチが私の腕に止まった。無意識に持っていたノコギリの平たい所で叩いたが、叩き方が弱かったのであろうか？チクリと刺されてしまう。べつにたいした事もなく、この出来事はこれで終わるはずであった。ところが・・・時間が経つに連れ、息苦しくなる。「これは普通じゃないなあ・・・」と心配になり病院に向かうが、着く頃にはアンパンマンの様に、顔や体がパンパンに腫れ上がり、さらに皮膚は火傷と同じような水ぶくれ状態となっていた。看護師さんが怖がり、誰も近づかない程である。緊急入院し、点滴を一週間ほど続けようやく腫れが治まったという経験があるからだ。どうやら、今で言うところのアナフィラキシーショックという一種のアレルギーで、私とハチは相性が合わないらしい。アシナガバチでもそんな状態なのだから、スズメバチなら死を意識するほどの恐怖であった事が、想像頂けると思う。



【見た目はなかなか芸術的ですが…】

話を元に戻すが、ハチが居た原因は我が家の軒先に大きなスズメバチの巣があったのである。私もさることながら孫が刺されては大変と、慌ててハチの駆除業者を呼び寄せた。呼び寄せておいてから、「ところでお金はどれ位掛かるの？」と問の抜けた質問をする。「普通のハチなら一万三千元、スズメバチなら三万五千元です。」と言う。えっ！三万五千元もするのとかケチな性分が顔を出す。あのハチは、どう見てもスズメバチで、私もあれはアシナガバチだと言い切る自信もなく、そこは命に関わる事でもあり、仕方なく“お願いします”と覚悟を決めた。ただ、そのタイミングで家内が「お父さん、天井の上でもブンブン音がしてるで！」と言い出す。確かめてみると、天井内でも大きなスズメバチの巣があった。と言う事は・・・2つだと値段は倍になるの？。早速質問をすると、「はい、七万に消費税となります。」と言う。そこを何とか1つ分にならんのかいな？と、価格交渉を始めるが何ともならないようである。微妙な沈黙の時間が流れる・・・。すると、私の困った心とケチな心が入り混じった様子を見かねたのか、「藤本さん、天井裏は防護服がいますから私達に取ります。軒先は駆除剤を吹きつけますから、後から自分で取って下さい。そうすれば取り除いたのは1つですから。私達も駆除剤を吹き付けた記憶は無い事になりますが、よろしいでしょうか？」と言う。勿論、2つ返事で承諾した事は言うまでもない。

ただ、作業も無事終了した頃には私のケチな性分もなりを潜め、何処にあるとも解らない良心が顔を出し始める。大変な思いをして駆除して下さったのに・・・と、決して得をしたとは思えなかったのである。

お帰りになる業者様に、何度も何度も頭を下げる私が出た。何とも後味の悪い秋の日の一日であった・・・。

ではまた来月もお会いしましょう。  
今月も最後まで読んでいただき・・・

あーがしう  
ございました!!

